



2022年8月2日

本学から2件の研究事業がAMEDで採択されました

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)「令和4年度「新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業」に係る公募(3次公募)研究開発課題」の採択結果が2022年6月17日(金)に発表され、本学教員が研究代表を務める2つのテーマが採択されたのでお知らせします。[今回の研究公募において、若手育成枠を除いて一つの大学で複数テーマが採択されたのは、本学を含め全国でわずか6大学しかなく、本学における先鋭的研究が評価されたものと考えております。](#)

<公募採択された研究課題> ※研究の詳細は別紙資料1・2をご参照ください。

(1) 医獣連携による重症熱性血小板減少症候群の病態機序の解明

研究代表者：岡林環樹(産業動物防疫リサーチセンター教授)

(2) アドレノメデュリンを用いたCOVID-19による肺炎の重症化予防—医師主導 治験 Phase IIa

研究代表者：北村和雄(フロンティア科学総合研究センター特別教授)

<研究分野における本学の取り組み>

現在、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)や重症熱性血小板減少症候群(SFTS)等の新たな感染症(新興感染症)の流行が世界各地で発生し、大きな問題となっています。また、感染症の原因となる病原体は刻々と変化を繰り返し、ヒト社会もその対応により大きな変貌が迫られています。

このような社会背景に対応すべく、本学は日本で初めてとなる医学と獣医学が融合した研究科「医学獣医学総合研究科(博士課程)」をいち早く設置するなど、異分野融合型の研究体制や強固な産学官連携体制の土台を築いてきました。また、生命科学を大学の重点領域研究に定め、フロンティア科学総合研究センターを中心に学部・研究科の枠を超えた研究体制を構築しています。

このように、本学独自の強みを生かしながら、地域社会および国際社会に貢献できる研究を進めてまいりますので、各研究事業の取材についてご検討いただければ幸いです。

- | |
|--|
| ① 発信元
企画総務部総務広報課広報係(後田・廣谷)
TEL：0985-58-7114 |
| ② 研究事業(1)に係る問い合わせ先
産業動物リサーチセンター(岡林)
TEL：0985-58-7575
e-mail：cadic@of.miyazaki-u.ac.jp |
| ③ 研究事業(2)に係る問い合わせ先
フロンティア科学総合研究センター(北村)
TEL：0985-85-2970
e-mail：kazuokit@med.miyazaki-u.ac.jp |

(1) 医獣連携による重症熱性血小板減少症候群の病態機序の解明

研究代表者：岡林環樹(産業動物防疫リサーチセンター教授)

研究開発期間：令和 4 年 7 月 19 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日

契約(交付)予定額：90,000 千円(間接経費を除く)

【研究の背景】

「重症熱性血小板減少症候群(Severe fever with thrombocytopenia syndrome : SFTS)」は、イヌ、ネコによる感染サイクルも存在する致死性人獣共通感染症です。SFTS は、宮崎県での患者数が非常に多いうえ、致死率が 20%と非常に高く、最近では西日本から東日本へと感染拡大が危惧されており、早急な対策が必要となっています。

【研究の取り組み】

1) 研究拠点整備：

患者発生数が全国 1 位である宮崎県に、宮崎大学を中心とした医学と獣医学が連携(医獣連携)した SFTS 研究拠点を整備します。

2) 研究連携体制整備：

SFTS 研究拠点を中心に、ヒトおよび動物の臨床研究、基礎、応用分野の研究者が集結する多分野融合型の SFTS 研究連携体制を整備します。

参画研究機関

宮崎大学医学部、宮崎大学フロンティア科学総合研究センター、大阪大学微生物病研究所、大阪大学感染症総合教育研究拠点、藤田医科大学研究推進本部国際再生医療センター

3) 基盤研究の推進： SFTS 研究連携体制にて、多くの臨床データに基づく基礎研究を行います。その研究成果を、臨床データでの再検証と発症動物での検証を行うことにより、SFTS 重症化機序の解明、診断、治療開発のための基盤研究に取り組みます。

▼ 参考：令和 4 年 3 月 17 日 宮崎大学プレスリリース「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の感染源特定について」

https://www.miyazaki-u.ac.jp/public-relations/20220317_press_02.pdf

- (2) アドレノメデュリンを用いた COVID-19 による肺炎の重症化予防—医師主導 治験 Phase IIa
研究代表者：北村和雄(フロンティア科学総合研究センター特別教授)
研究開発期間：令和4年7月19日～令和5年3月31日
契約(交付)予定額：128,200千円(間接経費を除く)

【研究の背景】

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は世界的流行が継続しています。ワクチンや抗ウイルス薬等の開発・実用化が進み、また、ウイルス株の変化によって、発症しても軽症で留まる患者の割合が増えています。しかしながら、一定数の患者は中等症から重症へと症状が進行してしまい、このような状態になった場合の治療薬は未だ限られているのが現状です。このため、感染拡大が続いている日本では死亡者の絶対数は高止まりしています。

研究開発代表者が発見した「アドレノメデュリン(AM)」は、生体内にあるペプチドホルモンです。COVID-19を含む重症の炎症患者では体の中でのAMの量が増加し、炎症による臓器障害を抑制していると考えられています。また、実験動物において、AM投与が炎症による臓器障害を軽減することが確認されています

【研究の取り組み】

COVID-19による肺炎患者にAMを投与することで、患者の治療期間短縮や生命予後の改善が得られるかを検証する下記の二つの多施設共同の医師主導治験(前期第II相試験)を実施します。これらの治験を完遂し、COVID-19による中等症から重症肺炎に対する新しい治療薬開発に取り組みます。

- (1) 中等症患者対象： アドレノメデュリンを用いたCOVID-19による中等症肺炎の重症化予防(臨床試験登録番号 JRCT2071210038)
- (2) 重症患者対象： アドレノメデュリンを用いたCOVID-19による機械換気を要する肺炎の重症化予防肺炎(臨床試験登録番号 JRCT2071200041)

▼参考 :2021/3/25 宮崎大学プレスリリース「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)治療薬の開発状況」

http://www.miyazaki-u.ac.jp/public-relations/20210325_01_press.pdf

▼参考 :2020/10/9 宮崎大学プレスリリース「新型コロナウイルス感染症関連重症肺炎に対する治療薬の医師主導治験を開始」

http://www.miyazaki-u.ac.jp/public-relations/20201009_01_press.pdf

▼参考 : Adrenomedullin therapy in moderate to severe COVID-19. Biomedicines. 2022, 10, 533. doi.org/10.3390/biomedicines10030533.